



## オリンピックピツク

徳川宗家十八代当主・静岡商工会議所最高顧問 徳川恒孝つねなかり



ロンドンのオリンピックパーク。左手前がオリンピックスタジアム(写真提供:共同通信社)

四年に一度の恒例ですが、皆様御同様に今年の夏もオリンピックのテレビ観戦を随分楽しみました。つぎつぎと競技を見ていきますと、夫々の国の御国柄とも言うべき色々な個性に気が付きます。そして日本の特色は、傑出した個人の力よりも、矢張り抜群のチームワークにあることを毎度のことから強く感じました。団体競技だけでは無く個人競技の場合でも、その選手を支えているのがチーム全体の力であること。選手一人一人が、そのチームの為に全力を尽くしていることが画面を通じて良く見えました。この自分個人の為よりもチームのために全力を尽くすという感覚は、世界の中ではかなり珍しい、日本の素晴らしい特徴だと思つていますが、そのとても日本的な選手達が、堂々と好成績を上げるのを見るのは大変に嬉し

いことでした。

私が最初に外地勤務をしたのは、もう遠い昔の三〇歳、生意気盛りの頃でしたから米国人のボスと実に良くぶつかりました。米国式なのでしようが、要は「云われたことを唯忠実にキツチリやれ」だけでしたから、それはおかし、こうしないと日本は動かない、と都度真つ向から反論する私と何時も激論になりました。とうとうそのボスは即刻この生意気な日本人は帰国させるべきであると首脳陣に直訴したことは、後になって知りました。

二度目の時は私が全米のトップでしたが、今度は私が何を言つても「イエッサー。仰せの通りに致します」と言う返事しか返つてこないのです、これは又困ったことだと全員参加の大議論型に直すのに苦労した記憶があ

ります。

テレビを見ながら、そんな昔の事を思い出しました。夫々の国には、その国で「良し」とされる形が有る訳で一概にどれが良いかは決められないのですが、こと日本に関しては矢張り全員参加の平等な議論を経て、チーム全員が一丸となることを大切にするのが最も良いように思います。

そんなことを思いながらこの原稿を書いています、この皆で力を合わせて、今度はどう静岡をより素晴らしい所に育てて行くかという課題は、静岡に育ち、静岡を愛しておられる皆様に考えて頂く問題だと思います。

あの家康公が愛された、海の幸、山の幸に恵まれ、ゆつたりと明るく美しい静岡ですから、これからどんな素晴らしい都市になって行くのか、とても楽しみにしています。